

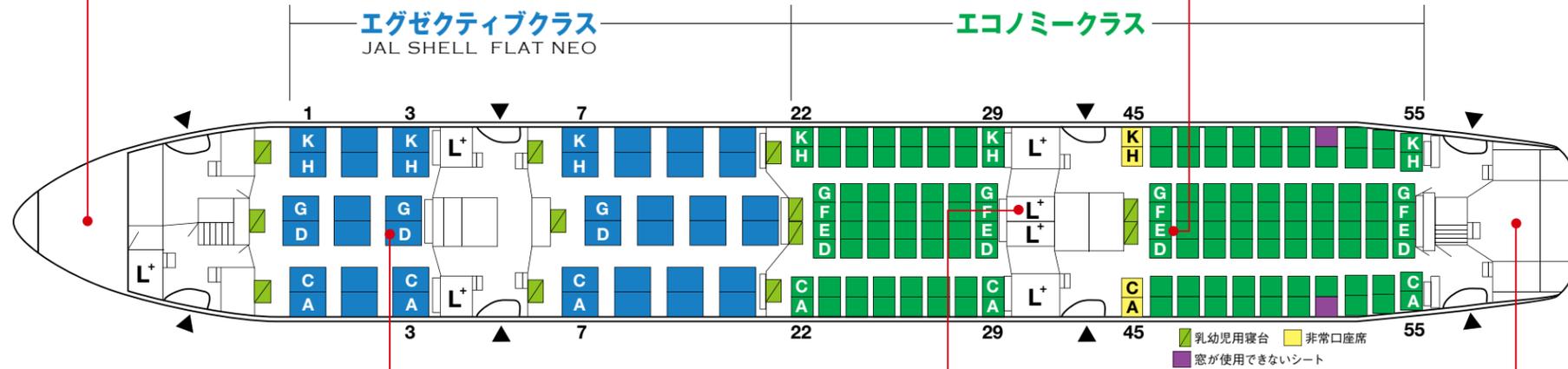
COCKPIT



グレー、シルバー、ブラックの色調を基本にした洗練されたイメージのcockpit。大型ディスプレイの採用で計器の視認性が向上し、より安全な運航が可能となる。また新しく採用されたHUD(ヘッドアップディスプレイ)には、飛行に必要な基本情報が表示される。加えてEFB(エレクトロニック フライト バック)で、運航マニュアル、空港情報などを電子化、画面で表示される。視認性も向上し、検索、閲覧が効率化された。

SEAT

JALボーイング787のエコノミークラスの天井は同規模の中型機(ボーイング767型機)より約14cm高く、窓は1.3倍の大きさとなった。座席は足元の広いデザインと、座り心地の良さが評判のRECARO社製を採用、横幅が約2cmワイド(肘掛間、777座席対比)となり、居住性が向上した。配列:2-4-2・座席ピッチ:約79cm・座席幅:約47cm(肘掛間)・個人テレビモニター:10.6インチ(タッチパネル式)・その他:ユニバーサルPC電源、USBポート、RCAジャックを配備。



EXECUTIVE CLASS



Eグゼクティブクラスのシート「JALシェルフラットネオ」は、米国のB/E Aerospace (B/Eエアロスペース)社製で、配列は2-2-2となる。座席ピッチは約153cmで、肘掛間の幅は777のシートより5cm広い54cmになった。個人テレビモニター:15.4インチ(タッチパネル式)・リクライニング:約171度・その他:ユニバーサルPC電源、USBポート、RCAジャックを配備。

GALLEY



客室乗務員が機内食を用意するギャレー(厨房設備)では、食事の盛りつけを行いやすく、作業台を広くした。また、機体前方と後方(写真)のギャレーは、短時間で効率良く作業を行えるように、レイアウトされている。

LAVATORY



ラバトリー(洗面所)は、ユニバーサルデザインに基づいた使いやすいデザインに。エグゼクティブクラスにはTOTOとジャムコ、ボーイングが共同開発した温水洗浄機能付き便座を導入。また、車いす対応のラバトリーも1ヵ所設置している。ドアには大きな姿見を設置、より快適な環境となった。



Vol.07

機内レイアウト

村松謙二(編集部)＝文
Text by AGORA
高嶋佳代＝撮影
Photo by Kayo Takashima

JALボーイング787の座席数は、エグゼクティブクラス42席、エコノミークラス144席の合計186席。それぞれのシートが従来の機材よりも幅広く、ゆったりとくつろげる。またオリジナルのLED照明、新設計の洗面所、エレクトリックブラインドなど、新装備を満載してお客さまを迎える。

JAL ボーイング787の運航路線

[現在の投入状況]

区間	便名	運航便数
東京(成田) - ポストン	JL008/007	週間 7便
東京(羽田) - 北京	JL023/024 ※1 JL021/022 ※2	週間 7便
東京(成田) - モスクワ	JL441/442	週間 3便
東京(成田) - シンガポール	JL719/712 JL711/710	週間 7便 ※3
東京(羽田) - シンガポール	JL035/036	週間 7便

※1 2013年3月30日まで ※2 2013年3月31日以降 ※3 12月1日～1月31日までの間、週間4便が787-8機材での運航。

[今後の投入予定]

投入時期 12月2日～

区間	便名	運航便数
東京(成田) - サンディエゴ	JL066/065	週間 4便 ※4

投入時期 2013年2月(予定)

区間	便名	運航便数
東京(成田) - ヘルシンキ	JL413/414	週間 4便 ※4

※4 サンディエゴ線は2013年3月より、ヘルシンキ線は2013年上期中に週間7便へ増便予定。
※スケジュールおよび使用機材は予告なしに変更される場合があります。